

# 兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.128

2012年9月5日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部  
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6  
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

但馬支部第26回総会記念講演

## 但馬の医療に携わって46年

～新田誠支部長が経験を語る～



（写真上）会員ら24人が参加した（写真右上）講師の新田誠支部長

但馬支部は7月15日、但馬長寿の郷で第26回支部総会を開催し、11年度活動まとめと12年度の活動方針を採択した。また、支部幹事に野田昌男先生（豊岡市）を新たに選出した（4面参照）。その後の記念講演では、新田誠支部長を講師に「但馬の医療に携わって46年～新田誠医師が語る」を行い、24人が参加した。参加者の発言を2面より紹介する。

（2面につづく）

（1面からつづく）

## 協会但馬支部第26回支部総会記念講演 参加者からの発言



植木 稠雄先生

植木 稠雄 先生（公立豊岡病院名誉院長）

私が病院長時代に、新田先生自ら救急患者を搬送し、病院の先生方と一緒に診療されていたことが今でも強く印象に残っている。

但東町で46年間休みなく地域医療に尽力された先生は敬意を表する。これからも元気で頑張ってください。

谷 尚 先生（公立八鹿病院名誉院長）

新田先生の活動は、30年前に開催された自治体診療所の研修会で、住民組織「但東の健康と医療を守る会」を立ち上げ、会長として住民参加型の地域医療を強力に主導された先見的な事例として紹介された。地域住民の健康を守るためには、健診事業

の充実、日常生活の指導など保健・医療・福祉と多岐に渡る。へき地診療所で医療だけでなく住民の健康まで守ることは、並大抵のことではないと感銘を受けた。

また、カルテを重視する診療活動は、私も同じ思いである。私個人の意見としては、カルテは永久保存するべきだと思っている。先生の患者・住民と真摯に向き合う姿勢が「地域医療に貢献する」ということではないか。先生は、46年という長年にわたり、地域医療に貢献され、大きな足跡を残された。



谷 尚先生

小笠原健次郎 先生（但東町・合橋診療所院長）

私が30年前に但東町で開業したころ、新田先生より「地域医療は細くても、長く続けることに価値がある」と助言頂いた。その当時、実感がわかなかったが、時が経つにつれ地域医療は長く続けることに価値があると痛感させられた。

開業当初、先生と往診に同行した際、先生が丁寧に時間をかけて診療をされていることが印象的であった。また、カルテの重要性も教えて頂いた。

これからも、「細くても、長く続けることに価値がある」という先生の助言を肝に銘じて、先生の後に続けていければと思う。



小笠原健次郎先生

（3面につづく）

（2面からつづく）

### 森本 七重 氏（兵庫県看護協会但馬支部）

新田先生は、但馬で訪問診療が始まった数十年前、在宅医療を熱心に取り組まれていた堀川病院（京都市）の見学会を企画された。その当時、私にとって「在宅で看取る」ことが非常に貴重な経験で、患者家族がとてもいい表情で診療、看護を受けられていたことが印象的であった。見学会に参加して、地域での受け皿も含め、本来あるべき医療の姿であると気付かされた。白い帽子をかぶられた先生が、いつまでも但馬の地で診療を続けて頂ければと思う。

### 中井 弘美 氏（兵庫県看護協会但馬支部）

長きにわたり、但馬の医療にご尽力され感謝したい。患者家族ともに生涯にわたりカルテが診療所に保存されている但東町の住民は、幸せであると思う。先生のもとで高橋診療所が続いてほしいと誰もが願っているのではないかな。

### 千葉 裕 氏（たじま医療生活協同組合理事長）

たじま医療生協の設立時は、新田先生より住民運動について指導を受けた。長年にわたり、「但東の健康と医療を守る会」を運営していく中で様々な苦労があったかと思う。高橋診療所の運営主体が豊岡市に移管された現在、住民運動がどう変遷されたか機会があればぜひ伺いたいと思う。

### 植木 章 氏（東播建設労働組合但馬支部）

新田先生とは、保険医協会の様々な企画を通じてお付き合いさせて頂いている。

高橋診療所がある旧高橋村は、太平洋戦争時、国策により多くの村民が満蒙開拓団へ召集され、犠牲となった。いわば但馬で最も貧しい集落の医療を担って頂いたことには敬意を表する。

## \*お知らせ\*



- 兵庫県保険医協会のホームページは、  
<http://www.hhk.jp/>
- 会員専用のメーリングリストを開設しております  
登録いただける方は下記までお知らせください  
e-mail:hyogo-hok@doc-net.or.jp TEL:078-393-1801

## 兵庫県保険医協会但馬支部役員 敬称略

支部長	新田 誠（豊岡市）	長谷川正宜（豊岡市）
副支部長	森 和夫（養父市）	藤井 高雄（豊岡市）
	下山 均（美方郡）	古澤 倫代（美方郡）
	谷垣 正人（豊岡市）	馬庭 幸二（朝来市）
幹事	金子 元彦（豊岡市）	吉田 仁志（豊岡市）
	野田 昌男（豊岡市）	新 顧問 谷 尚（養父市）
	坂本 健一（朝来市）	藤澤 通明（美方郡）

### 2011 年度活動報告

- 1、第25回支部総会は、記念企画として、地域の公立・民間病院長や医師会長らを招いて懇談会を開催（7/10）。医師不足問題への対応や病診連携など、地域医療をどう守るかについて活発に議論を交わした。
- 2、新規開業の会員ら対象に会員懇談会「やる気を引き出す雇用管理（講師：桂好志郎社労士）」を開催（9/10）。雇用に関する具体的な事例について、活発に意見交換され好評を得た。
- 3、医療現場でのモバイル機器の活用をテーマに「医療の現場で、モバイル機器を使いこなす方法を習得する」研修会をシリーズ企画で開催（6/12、8/21、9/11）。新田誠支部長をアドバイザーにiPadの活用法など会員らが経験交流を行った。
- 4、「保険請求事務講習会」を開催（9/24～25）。8人が参加した。
- 5、第14回医院運営なんでも懇談会を開催、エム・キャスト株式会社（中古医療機器販売会社）と下山均副支部長が「中古医療機器の活用」をテーマに報告した（8人参加）。
- 6、シリーズ企画の症例検討会「他科を知る会」を1回（2/16）開催、4人が参加した。公立豊岡病院整形外科部長の中山富貴先生、公立日高医療センター顧問の芦田一彌先生を講師に、整形外科領域の多彩な症例を検討した。
- 7、「新点数研究会（医科）」を開催し、90人が参加した（3/25）。
- 8、新点数Q&A研究会を開催（4/29）。下山均副支部長を講師に15人参加した。
- 9、職員接遇研修会を大手前短期大学准教授：水原道子氏を講師に開催（5/19）、31人が参加した。
- 10、勤務医未入会員対策として、但馬地域の13の公立私立病院長宛に新田誠支部長、藤井高雄支部幹事より紹介状を得て、全病院を訪問。医局での資料配布など勤務医対策に取り組んだ。
- 11、『2011年病院医師名簿』を発行し、但馬地域に隣接する病院を含む全22病院を掲載、会員から要望のあった高齢者施設一覧も掲載した。但馬地域の病院・医院からは、「病診連携に役に立つ」と好評を得ている。
- 12、協会事務局の現地研修として、但馬支部が研修先として受け入れた（12/10～11、協会事務局5人が参加）。豊岡市立高橋診療所、公立梁瀬医療センター、出石町の高齢者施設を見学した。
- 13、支部ニュースを2回発行し、活動の報道を行った。
- 14、支部幹事会は6回開催、研究会等の企画立案を行なった。

### 2012 年度活動方針

- 1、病診連携を深める取り組みとして「症例検討会」をシリーズ企画で開催する。また、但馬地域の病院の見学会を開催する。
- 2、「地域医療を考える懇談会」など、医療・保健・福祉の連携を強める機会を設ける。
- 3、審査指導対策、労務問題、パソコンなど医院の運営に役立つテーマを取り上げ、「医院運営なんでも懇談会」を開催する。
- 4、診療現場を会場に、開業医がお互いに経験を気軽に交流できる場として「日常診療勉強会」を開催する。
- 5、幹事による会員訪問を行い、支部ニュース「但馬の息吹」欄で紹介していく。
- 6、開業情報をすばやく入手して新規開業医の100%入会を目指す。また、病院訪問とともに開業医と勤務医が一堂に集える企画を開催し、勤務医に入会を訴える。
- 7、市民公開企画を開催し、地域住民や市民団体との連携を強める。
- 8、支部ニュースの定期発行を目指し、親しみやすい紙面づくりを工夫する。
- 9、魅力ある幹事会運営に務め、若手会員の支部行事への参加を促進させる。
- 10、保険医協会事務局の現地研修として、但馬支部が研修先として受け入れる。
- 11、家族や従業員が気軽に参加できるような場をつくり、互いの交流を促進させる。
- 12、文化的な企画を積極的に取り入れ、環境・人にやさしい支部活動をめざす。